

アトリエ 琉游舎 だより 84号

アトリエ琉游舎 ryuyusha.com/

2020年7月29日発行

琉游舎for healing <https://toi101izuru.wixsite.com/mysite-3>

有縁無縁の精霊を思い感謝する日

お盆施餓鬼法要

8月16日(日)10時半から

- お盆は祖先の霊を供養する行事です。この期間には祖先の霊が子孫や家族の元に帰って来るとされ、盆踊り、精霊流し、迎え火、送り火などの様々な行事が営まれます。日本人古来の祖先への感謝と供養の気持ちが仏教の考えと融合し今も生活の中に定着しています。
- 施餓鬼会は貪り苦しむ餓鬼に対し飲食を施し、先祖代々や広く無縁の諸精霊を供養する法要です。自分の命はすべての生命と繋がっていることを自覚し、自らの欲や貧りを反省するとともに生きとし生けるものすべてに感謝し思いを巡らす大切な法要です。
- 琉游舎ではお盆と施餓鬼会を融合して「お盆施餓鬼法要」を行います。有縁（親や祖先）の精霊だけではなく、有縁・無縁を問わないすべての精霊への供養と回向の法要です。
- 一年に一回、自分の近い故人や祖先に思いをめぐらし感謝し、また永遠の過去から永遠の未来までの、有縁無縁の精霊を思い感謝し供養する日にいたします。また受難、殉難、遭難、自然災害、人為災害、戦争、病没、公私問わず、有史以来亡くなられたすべての方へ供養・回向し、私達の安寧と生きとし生けるものの平和を祈念いたしたいと思ひます。
- コロナ禍の早期終結も合わせて祈念していきます。ただ祈念すれば何事も叶う訳ではありません。ましてやコロナ退散法要をしたからと言って心配無用などと言うことは全くないことは明らかです。大切なことは神仏にお願いすることではなく、私たちが「願い、誓い、行う」ことです。家内安全息災延命などを**願い**、有無両縁の精霊の前で願いを**誓い**、日々の生活の中で願いのままに**行う**ことが、私たちが法要を行う真の意味であり目的です。
- 琉游舎はすべての宗派・宗教にもオープンに開かれた場所です。仏教だから日蓮宗だからとのご懸念は無用です。私達の祖先を思い、広くすべてのいのちに感謝し、これからの平和と安寧を願う方であれば、どなたでもお越し下さい。一緒に祈念いたしましょう。

詩話会

8月8日(土)
13時半から

読書会13時半

8月11日(火)
8月25日(火)

般若心経を読んでいます。途中からでも分かるよう毎回冒頭から読んでいます。資料はご用意していますので手ぶらでどうぞ。気軽にお越し下さい。

居酒屋の会

毎月25日
16時半から

映画会

毎週木曜日
13時半から

8/6	13時半	ドイツ零年 (73分)	ロッセリーニ監督。ナチス崩壊後家族とともにベルリンに生きる少年。病弱な父親は家計の厄介者であることを恥じ「死」を口にしていた。ある日少年は劇薬を手にし、
8/13	映画会お休み		
8/20	13時半	逃亡者 (90分)	ジャン・ギャバン主演。死刑が執行される直前独軍の空襲のお陰で脱獄に成功したクレマン。死んだフランス人兵士の制服と身分証を手に入れ自由フランス軍の一員として戦功を立てるが。
8/27	13時半	キー・ラーゴ (100分)	ハンフリー・ボガート主演。フロリダ半島の南の小島キー・ラーゴに、第2次大戦の復員将校フランクが上陸した。島を舞台に繰り広げられるフィルムノアル。虚無的・退廃的犯罪映画
9/3	13時半	見知らぬ乗客 (101分)	ヒッチコック監督。ある日実力派テニスプレーヤーに殺人の誘いが届く。サングラスに写る絞殺現場、暴走するメリーゴーランド、全編に監督の天才的演出がさえ渡る。

皆さんの目には見えないかも知れませんが、今この時、ご先祖様がお盆（13日）に間に合うように自分の祀られている家に向かって歩いている頃です。お盆はご先祖様があのお世からこの世へと戻ってくる日です。この世にお迎えし、またあのお世にお見送りする風習はその地域によって大きく異なります。そこに土着の祖霊信仰と外来の仏教との融合が見てとられとても興味深いものです。本来仏教の教えとお盆の風習は相反するものでなじまないはずなのですが、インドから中国を経て辺境の地日本に来る間にいつの間にか年中行事となり、祭りや里帰りの機会と合わせて日本人の生活の重要な一部となりました。外来のものを取り入れるとき従来の土着信仰を否定するのではなく、融合する方法を採った日本人の智慧の一端がここにあります。

私の住む栃木県北部を辺境の地という怒られるかも知れませんが、ここは平安時代には間違いなく日本の辺境、大和朝廷支配の北端でした。ここに仏教がもたらされ、土着の信仰と融合していく過程で今に到るまで続く風習なのではと、私が勝手に想像している光景が、冒頭に書いた一節です。この地方では8月1日に地獄の釜の蓋が開きます。お墓の中のあのお世へと通じる蓋が開き、ご先祖様はお盆に間に合うように13日間かけて自分の生まれ育った家まで歩いてやって来るのです。長い道のりでお腹をすかせないように釜の蓋まんじゅうをお供えします。さて皆さん、眼をつぶると今、無始以来の数多の祖霊の方々が、一斉に帰るべき家を目指して四方八方押し合いへし合い歩いている姿が見えませんか？裸足で足が真っ黒だろうと玄関先に足洗いの水桶を用意する家もあるようです。私はこの光景を想像すると、とても楽しく、心が豊かになります。亡者の行進というような暗く陰惨なイメージは全くありません。おおらかで微笑ましい風景です。短い足をちょこまか動かしながら片手でまんじゅうをぱくつき、さあおらが子孫は今年はどうなご馳走を用意してお迎えしてくれているだろうかと勇躍歓喜しながら家路を急ぐ姿。そして今年もご先祖様に満足して頂けるようにと、仏壇にお供えをしてお迎えの準備に抜かりはない子孫の姿。宗教とか信仰とかと理屈づけるよりはるかに本質的な、日本人のありのままの心象風景がここに見て取れます。そしてかつての辺境の地には案外、原日本人の死生観の源流がこのような思わぬ形で残されているのではと考えてみたくになります。

地獄の釜の蓋と言うことは、自分のご先祖様は地獄に落ちていたのか！亡者には足がないはずだから、足洗い用の桶は不要なのでは？などと突っ込みどころ満載の風習です。仏教では人は亡くなると仏さまとなり浄土に住んでいるはず。輪廻の鎖を断ち切ってもう二度と娑婆世界には戻ってこないのです。お盆は仏教の教えと相反することだらけですが、そんな仏教の理屈が屁理屈にしか聞こえないほど、お盆の風習は日本人の中に強く根ざしています。祖霊崇拜をどうやって仏教教義に取り込むか、昔の僧侶の苦勞が忍ばれますが、根本が違うもの同士どうやっても論理的整合性を取ることはできません。とはいえ、かなりの仏教原理主義者だと自負している私も、毎年必ず盆供養の法要を行っています。それは、私たちが永遠のいのちに触れ、今ここに生かされていることを実感できる数少ない機会だからです。ご先祖様は、生きとし生けるものの永遠のいのちのなかでも、自分自身がそのいのちの一員だということを本能的に感受できる身近な存在です。それは私たちが仏教教義を信じる信じない以前の、今自分がここにあるありのままの姿の反映なのです。

かつてはご先祖様の継続の根拠は家でした。家を継ぐ本家の当主がご先祖様として祀られ、それが未来永劫継承されることがご先祖様の願いでした。次男以下は本家に従属する一生か養子に出るしかありません。稀に荒地を開墾し分家が認められ新本家となるか、家を出て一旗揚げ上げ新たなご先祖様の始祖となるか、いずれにしても、家制度の存続と一体化した日本の社会構造の基盤が、ご先祖様でありご先祖様を祀ることでした。ところが家制度の崩壊で私たちが認識できるご先祖様はせいぜい親や祖父母、曾祖父母までとなってしまうました。核家族化の中でご先祖様を祀る意味合いや方法が変わってくることはあたり前のことです。お盆は里帰りしてご先祖様にまみえる日だったのが、いつの間にか子や孫が両親祖父母に会いに行く日となりました。お小遣いをくれて何でも言うことを聞いてくれる祖父母や生み育ててくれた両親が亡くなれば孫や子は悲嘆に暮れるでしょう。愛する人の死が悲しいのは人の自然な感情です。しかしその感情を毎日変わらず維持し続けて生きていくことは不可能です。肉親の死という最大の哀しみは、日常の喜怒哀楽の波間にいずれ同化されていくでしょう。そしてこの哀しみの感情は、亡き人の供養を重ねるにしたがって、悲嘆から亡き人に守られながら私たちは今ここに生かされているという、喜びと感謝の感情に変わっていくのです。通夜、葬儀、四十九日、一周忌、三回忌、七回忌、三十三回忌と続く法要は、哀しみから感謝へと変わっていく感情の過程にあるものです。そして故人は次第に私たちを守護するご先祖様となっていきます。

家の存続の中にあるご先祖様、あるいは自分の記憶の中に存在するご先祖様（両親祖父母など）は有縁のいのちであり、永遠のいのちのごく一部にしか過ぎません。私たちは血脈によって今ここにあるのではなく、生きとし生けるものすべてのいのちの一つとしてここにあるのです。それが私の考える死生観です。私たちは有縁無縁を問わず、すべての永遠のいのちに生かされています。そして物理的な死を迎えるとき、私もまた、残された人たちの永遠のいのちの一つとなって、皆さんを生かす側に立つのです。それが生死不二と言うこと。釜の蓋が開いてご先祖様が私たちの元にやって来ることは、その象徴です。ですから、今私の周りをお盆の家路へと急ぐ数多のご先祖様は、皆が等しく共有する共通のご先祖様です。釜の蓋 琉游舎：戸井 出琉・恭子の閉まる16日まで、皆さんどうか私たちのご先祖様を慈しみ感謝しましょう。お問い合わせ先：0287-53-7848 08033508152 矢板市大橋2319-17コリーナ矢板C-850